



はじめて 名前でも呼んでもらえた日。

お客さまから名前でも呼んでもらえて一人前。
宅急便の現場で昔から言われてきた言葉です。

それは、宅急便を開始した39年前から、
先輩が後輩へと大切に伝えてきたものです。

もちろん、簡単なことではありません。

地図とにらめっこするように町を覚え、

お客さまの顔と名前を覚えながら、自分の顔と名前を覚えてもらう。

だから届ける際は、「ヤマト運輸の〇〇です」としっかり名乗る。

そうやって何度も通いながら、少しずつ地域に溶け込んでいくのです。

会社の名前ではなく、自分の名前でも呼ばれるような仕事をする。

そこには、「もっと身近な存在になれるように」

「もっと安心して荷物を任せていただけるように」

というセールスドライバーの意思が込められています。

山間部にある高知県大豊町では、
買い物の支援と高齢者の見守りを行っています。

車が通れない、山道の先に住む方もいます。

あるお宅では1週間以上、人と会わないこともあります。

過疎化によって商店がなくなり、日常の買い物さえ難しくなる町で、

お年寄りが安心して住み続けられるように。

私たちは、商店からの商品をお届けしながら、体調の確認を行っています。

これは行政、商工会、地元商店と連携して始めた取り組みで、

配達の際、もし健康状態に不安を感じれば、すぐに役場へ連絡します。

「顔見知りの人に配達してもらいたい」「地元の商品を食べたい」

などのさまざまな要望にも応えることができました。

担当するセールスドライバーの窪内は

「夕飯用に注文される方も多いため、

その日の夕方までに、できるだけ早く届けたいんです」と話します。

ここでは、地域に根付いたセールスドライバーたちが、

自分たちの町や人々のためにできることを考え、行動しています。

全国に6万人のセールスドライバー、
地域は違っても、お客さまへの想いは同じです。

ひざまで埋まる雪道を、届けに行く場所があります。

数百段つく階段を上って、届けに行く場所があります。

車では入っていない住宅街、商店へは自転車で行き、

高層マンションへは台車を使って、すべてのフロアに届けて回ります。

地域の特徴は違っても、荷物を大切に届けるという気持ちは何ひとつ変わりません。

お客さまの声を聞き、もっと身近で頼もしい存在になれるように。

日本の隅々まで広がるネットワークで、速く、確実にお届けします。

そして今日も、クロネコヤマトは新年を迎えたあなたの町へ。



ヤマト運輸

高知県大豊町をはじめとする、
地域の取り組みをホームページで紹介しています。

ヤマト運輸